

令和 7 年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和 7 年 12 月 18 日
江別市立豊幌小学校

1 本年度の重点目標

生き生きと 笑顔で学び 高め合う 子どもを育成する
自分の考えを伝え合う・学んだことを試してみる・学んだことを広げていく

2 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
経営方針の重点	<input type="checkbox"/> 「わかった」「できた」「やってみよう」につながる子どもが主体となる授業への改革 ①心を動かす課題設定 ②対話・協働による課題解決 ③対話を充実させるための ICT の活用 ④学力 3 層に応じた支援の充実 ⑤学びを見つけるふり返り	A	・「教師が丁寧に教える授業」と、児童が自ら設定した課題の解決をめざし主体性を発揮して活動する「学び方を自分で選ぶ授業」のハイブリッド方式による授業作りについての研究と実践を深める。 ・プリントの添削指導による個に応じた学力向上支援の取組を継続する。	A	A
	<input type="checkbox"/> 協働による高め支え合う教職員集団の育成 ①校務、教育活動の組織的・計画的な推進 ②安心して働くことができる職場環境づくり ③業務の平準化と効率化を図る「働き方改革」の推進	A	・保護者や地域の理解・賛同を得ながら働き方改革を進める。 ・働きやすさと働き甲斐の両方を保障することにより、優れたスタッフの確保につなげる。 ・校務の平準化及び教職員のメンタルヘルスへの対応に取り組む。	A	A
	<input type="checkbox"/> 地域に根差した開かれた学校づくり ①適切な情報発信 ②保護者地域の声を広聴 ③地域の活動での連携と働きかけ ④地域の人的・物的リソースの活用	A	・開校 130 周年を見据え、これまで以上に地域・保護者の声に耳を傾け、地域と一体感のある学校づくりを目指す。 ※地域学習ボランティアスタッフの発掘と組織の編制	A	A
教育課程・学習	<input type="checkbox"/> 全教職員による一人一人に寄り添った特別支援教育の推進 ①多様な子どもたちに応じた教育実践 ②校内特別支援委員会の定期開催	A	・学習につまずいている児童を的確に把握し、個別の支援の更なる充実を目指す。 ・日常的な観察とアセスメントに基づき、児童にとって最も適切な学習環	A	A

指導	③すべての子どもたちが協働して学ぶ場の設定		境を提供できるよう、組織的な特別支援教育を展開していく。(専門機関等とも連携を図る。)		
	<input type="checkbox"/> ウェルビーイングの向上を目指した教育活動の実施 ①非認知能力の育成を図る道徳教育の充実 ②生徒指導提要に基づく適切な指導 ③多様な人と関わり全ての人を大切に作る気持ちを育てる教育活動 ④「日本一のあいさつ」「ていねいな掃除日本一」「ありがとうの気持ちの日常実践」	A	・参観日等における道徳の時間の授業公開の実施を通し、道徳教育の取組を保護者や地域とも共有していく。 ・児童に自己決定する場を与え、子どもが主役の教育活動作りに取り組む。 ・児童会書記局が「挨拶」の取組を牽引することで、児童が主体となって取り組む活動を展開していく。	A	A
生徒指導	<input type="checkbox"/> いじめ・不登校“0”を実現する、未然防止・早期発見・早期対応 ①いじめ防止基本方針に基づく組織的対応の実施 ②全教職員による子どもの見取り ③援助希求的態度を育成する計画的な取組 ④教育相談体制の充実	A	・いじめの積極的認知(被害者に寄り添う支援)を学校全体で徹底する。 ・心の健康観察に基づく教育相談の日常化を継続する。 ・SOS の出し方教育の充実に向け、計画を見直し、改善を図る。	A	A
健康安全指導	<input type="checkbox"/> 心身を鍛える取組の推進 ①日常的な体づくりの実践 ②すべての人を大切にする性教育の充実	B	・グラウンドでのランニングや室内での縄跳びの取組を通じ、体力の保持・増進を目指す。 ・包括的性教育の計画を策定し、系統的で計画的な指導を行う。	A	A
	<input type="checkbox"/> 徹底した安心・安全な学校づくり ①徹底した危機管理 ②高い倫理観と危機管理意識を持つ教職員集団の育成	A	・危機管理やコンプライアンスに関する研修を通し、全教職員の共通理解に基づく共通行動の徹底を図る。 ・地域の自主防災組織や消防団との連携を確立する。	A	A
小中一貫教育	<input type="checkbox"/> 「15の春」を見据え、9年間で系統立てて育てる小中一貫教育の推進 ①9年間を見通した教育課程の編成 ②江陽中学校区スタンダードを意識した一貫指導	B	・小一中のみならず小一小的連携の強化を図り、中一ギャップを目指す。 ・家庭学習の実態を把握するとともに新たな手引きを作成し、効果的な指導につなげる。	A	A

【評点】 A：よい B：おおむねよい C：ややよくない D：よくない

【評価項目の設定、達成状況及び改善の方策に関する学校関係者評価委員の意見】

- ・近年、考える力の育成を重視した授業が増えたと感じる中で、基礎学力の向上にも配慮された指導を入れていることは安心できる取組です。また、タブレットに記入した心身の状態・悩みが、全教職員で共有されているのも良いと思います。これまで、学校生活の中で、状況や担任の先生によって対応に差を感じることもあったので、問題が共有されることで、問題を拾える大人が増え、対応につながりやすい仕組みができていると感じました。
- ・少ない児童数なため、教職員の人員も足りない中、皆様のおかげで細やかな指導・工夫をされていると思います。
- ・小一中だけでなく小一小の連携をとるのはとても良いと思います。
- ・狭い土地柄のせいなのか、地域の保護者以外の大人も児童を見守っていると思います。
- ・異学年でも仲が良かったため、進学後も電車で一緒になると近況を報告し合ったりで、仲間意識があり、外で辛いことがあっても乗り越えることができたりすると思います。
- ・先生方の手が足りない時にお手伝いをする「豊幌地域ボランティア」の話が実現するといいなと思います。
- ・説明を受け、学校の様子、指導の様子、学習状況などとてもよくわかりました。また、教職員が児童一人一人に寄り添った丁寧な支援をされていることもわかりました。自己評価がBとなっている項目もありましたが、示された改善策によって成果につながればよいと思います。
- ・これからも豊幌の地域性を生かした取組（食育や地域の行事等）を継続し、保護者・地域が「学校の応援団」となれるよう、私も微力ながら関わっていかねばならないと思っています。
- ・算数マスター等毎日の課題を量も多く大変だと思いますが、子どもたちの将来を見据えると、非常に意義のある素晴らしい取組だと感じます。特に、学校だけではなく日常生活の中で「自宅で学習する習慣」が身につくことは、「学力向上」にとどまらず、「努力を継続し達成していく力」を育み、将来の人生をより豊かにすることにつながると考えます。
- ・子どもたちの健やかな成長のために、日々尽力してくださっている教職員の皆様に心より感謝しています。
- ・「毎日学校へ行くのが楽しい」と思える学校作りを目指してください。
- ・小生は、農家生まれで家の手伝いで過ごし、将来のことは考えていなかった。小4の参観日に発表する機会があり、先生の他、隣のおばさんから褒められたことから勉強をするようになった。それまで通信簿は2~3であったが、以降4となった。中学では学年上位を継続した。できないことを叱咤激励することはやめて、できたことを先生の他に保護者がしっかり褒めるよう声掛けをしてほしい。
- ・孫は、少林寺拳法で全国大会に出場している。親は勉強がだめだと嘆くが、一芸に秀でることで生きていけるので、全部できる必要はないと諭している。体力は、女子が全国を上回っているのだからさらに伸ばしてほしい。それを見る男子の奮闘を求める。
- ・豊幌小学校創設130周年について、自治会で令和元年「とよほろ平成30年」冊子を発行しており、小学校では平成10年に「豊幌小学校開校100年記念誌」があるようなので、合作すれば準備できるのではないかと。
- ・現在、遊休教室を「子ども広場」で利用していると思うが、乳幼児の母親が10名程度、地区センターで月一回「あそびの広場」を利用している。さらに利用の希望があるかどうか不明ではあるが、幼少一貫教育の延長戦で考えてはどうか？
- ・学校では、雰囲気の中で子供の言い分を聞いて「保護者に話してよいか」了承をもらってから保護者対応をされていると思う。保護者のB回答（いじめ・不登校）が多いことについては、その保護者が怒りっぽいかどうか一因があると思うので見定める必要がある。ほとんどの親がガミガミで、その方々回答と思う。私の叔母の葬式で「私は母親に怒られたことがない」と50代の子供が挨拶をしていた。驚きの挨拶であった。
- ・2~3年前、小学校前の見守り隊時、見守りが終了したい8時過ぎに自宅近くでランドセル姿の小学生を見かけ、声をかけ登校しない理由聞いたが答えなし。別な日の見守り隊時、その子が学校前まで来て引き返したので追いかけて理由を聞いたが同じく答えなし。その子の自宅前で見かけたので再度訳を聞くも理由不明。「学校へ行きたくないが、家へ帰ればお母さんに怒られるので家にも入れない」様子であった。先生が迎えに来て登校するこ

とになった。その後は登校していると思う。(転校生)

- スクールバスの停留所があり、今まで3名の女子と一緒に乗車していたが、うち1名を最近見かけなくなった。他の2名に「学校でいじめにあっているのではないか？」と尋ねるが、「あの子ダメなの」と返答あり。どうして「ダメなのか」理由は聞いていない。
- 先生方には、学習面をはじめ、生活面においても素晴らしい取組をされていると、とても感じられます。おかげで、児童たちも少しずつ学力や学習する力が上がってきているのではないのでしょうか？